

# 消費税率引上げ後の消費動向等 について（6月第2週）

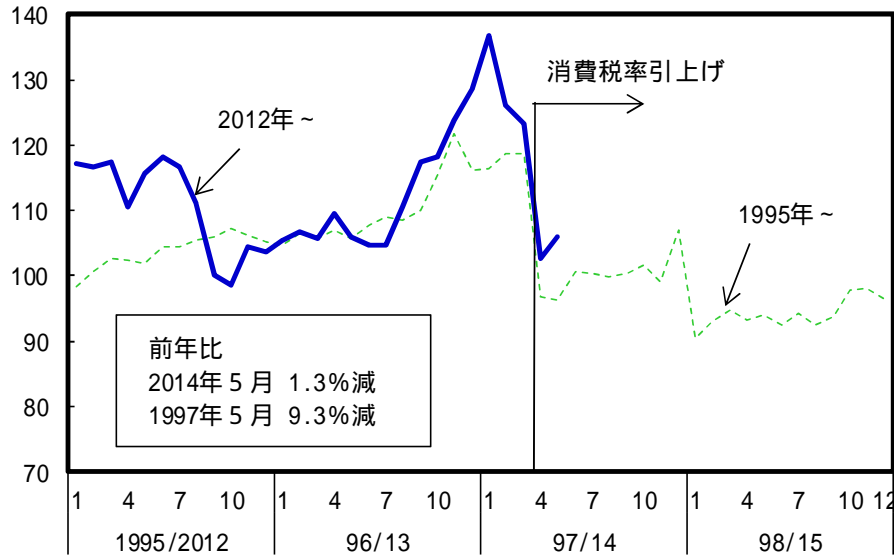
平成26年6月20日

内閣府

# 自動車・家電販売の動向

自動車販売は、5月は前年比で約1%減となり、4月からマイナス幅縮小。ただし、足下の受注は弱いので、先行きは慎重にみる必要がある。

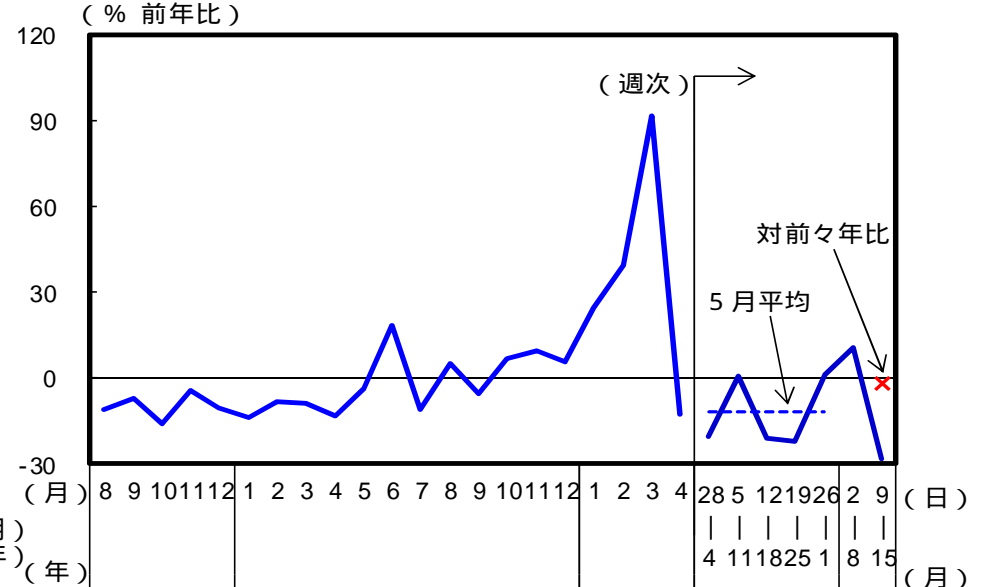
新車販売台数（含軽）（1997年頃との比較）



（備考）1．日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会により作成。  
2．内閣府による季節調整値を指数化したもの。

主要5品目の家電販売は、6月第2週では、前年の売上が好調だったこともあり、前年比30%程度減と、前年比マイナスに転じた。しかし、前年の売上が好調だったことを考慮すれば、反動減から持ち直しつつある、との声も聞かれた。

家電販売金額（家電量販店主要5品目）（税抜き）



（備考）1．GfKジャパン（全国の有力家電量販店販売実績を調査・集計）により内閣府作成。  
2．テレビ、エアコン、冷蔵庫、パソコン、携帯電話の5品目の合計。税抜き価格ベース。  
3．主要5品目の販売状況の集計値であるため、2014年3月までは、前年比が高めに出る傾向があった。

自動車販売台数（除軽、登録ベース）について、6月第2週までは、低調な動きが続いており、3月までの受注残の下支えはく落した可能性がある。なお、普通車よりも小型車の方が前年比が高くなっている。ボーナス商戦を期待しているものの、新型車の発表は今後もあまりない模様。【業界団体A】

軽自動車販売台数（届出ベース）について、6月第2週は、先週からあまり変化は無く、低調な状況。なお、前年6月は複数の人気車種が発売されたため、前年のハードルが高くなっている。【業界団体B】

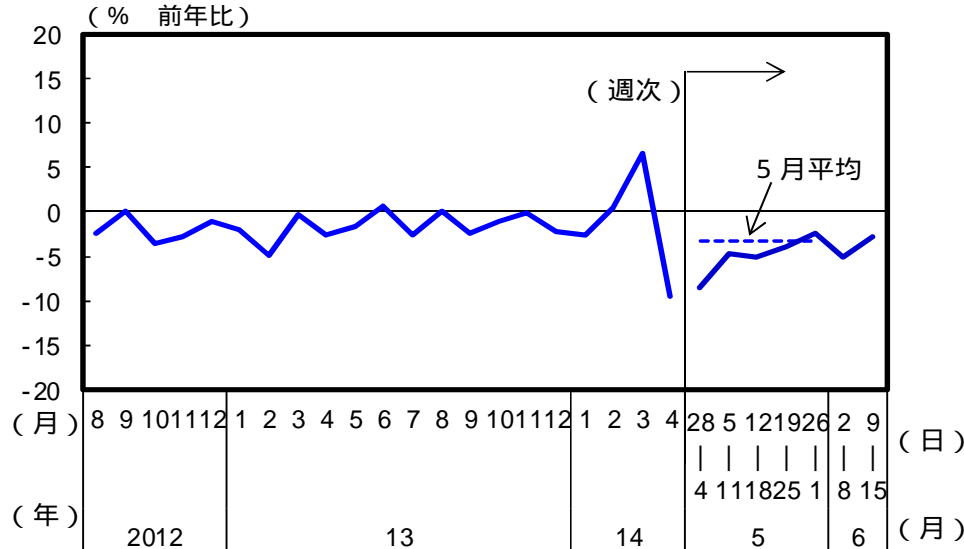
6月第2週は、猛暑によりエアコンを中心に前年の売上が好調だったため、前年比マイナスとなった。全カテゴリーでも、前年比20%程度となった。足下の売上は、天候などに左右されており、反動減からは抜け出しつつある状況と認識している。【市場アナリスト】

6月第2週は、テレビなどの売れ行きは好調だったが、猛暑により前年の売上が好調だったため、前年比マイナスとなった。前年を考慮すれば、反動減からほぼ持ち直している、と認識している。【家電量販店】

# 飲食料品・百貨店・サービス販売の動向

飲食料品は、6月第2週では、前年比約3%減と先週からマイナス幅が縮小。反動減から持ち直している、との声も聞かれる。

飲食料品（除く生鮮食品）販売金額（スーパー）  
（税抜き）



(備考) 1. KSP (全国の食品スーパーマーケット販売実績を調査・集計) により作成。  
2. 加工食品、飲料・酒類、菓子類の3品目の合計。税抜き価格ベース。  
3. 既存店ベースのため、前年比が低めに出る傾向がある。  
4. 6月9日～15日のデータは、速報値。

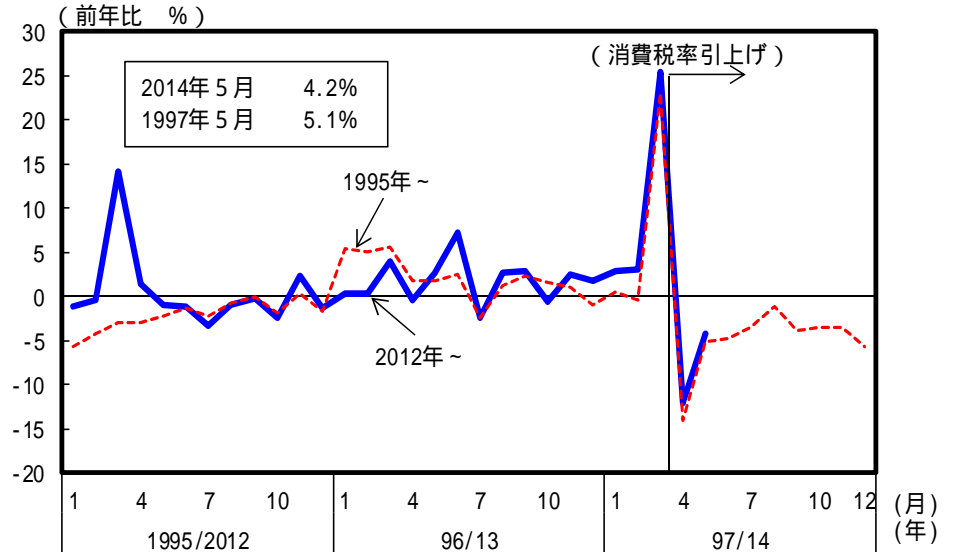
**6月第2週は、前週よりプラス幅が拡大。週の中頃は雨が降ったものの前週ほどではなく、また、週末にかけては、気温も高く天候に恵まれたことが背景。お米も前年比プラスとなり、反動減から持ち直している、と認識している。**  
【食品スーパー】

サービス消費は、旅行は、6月以降も堅調に推移するものとみられる。外食は、消費税率引上げの影響は軽微であり、6月第2週も引き続き好調を維持との声。

客数減少などの動きは見られず、高価格帯商品の動きも良く、**売上は前年比プラスを維持。**  
【外食チェーンA】

大手百貨店の6月第2週の売上高は、天候が回復したことから、第1週に比べて前年比減少幅が縮小し、婦人衣料は、ほぼ前年並みまで改善している、との声も聞かれる。

百貨店売上高（税抜き、既存店ベース）



(備考) 日本百貨店協会により作成。

**高額品についても、緩やかではあるもののマイナス幅が縮小するなど回復傾向が継続している。特に、バッグや腕時計の動きが復調。**  
【百貨店A】

**6月第2週は、天候が悪かった第1週に比べて、売上の前年比減少幅が縮小した。婦人衣料品については、主力店舗で、ほぼ前年並みまで改善している。**  
【百貨店B】